



# 嬉 望

第 11 号

兵庫教育大学 学校経営コース大学院生編集部

## ●浅野ゼミ生による研修会が行われました

7月21日(木)に、浅野ゼミに所属する院生2名による文献等から得た知見の発表と、それに関して議論する研修会が行われました。1つめの発表では、『格差を超える中学校』(小林光彦著、解放出版社)と『公立学校の底力』(志水宏吉著、ちくま新書)を参考に、歴史的に荒れてきた経緯を持つ学校が、けじめある雰囲気がある学校となり、学力向上に取り組み、「効果のある学校」に変貌する過程について学び、議論しました。2つめの発表では、『日比谷復権の真実』(長澤直臣著、学事出版)から、東京都立日比谷高校の改革が示唆するものを学び、様々な角度から議論しました。このような会を通して、院生の一人が得た知見を皆で共有し、学習効果をさらに高めることにつながりました。



## ●日本文化理解教育プログラム(剣道部門)に協力

本学修士課程には、日本文化理解教育を推進できる教員を養成する「日本文化理解教育プログラム」があります。6月の授業に、本コース2年の山中先生(鳥取西高)が講師として参加しました。剣道の授業は、山中8段をはじめ、関西大学のアレック7段と兵庫県国体選手の安田4段の模範演技です。試合形式で行われましたが、傍聴した学校経営コースの学生によると、「山中先生は格が違う」「威風堂々とした気品がある」「動きが俊敏」等、感嘆の声しきりでした。

山中先生は、全日本選手権でも入賞、全国教員剣道大会では優勝の実績を持つ一流選手で、剣道界では「鳥取と言えば山中洋介」と言われる有名剣士です。



## ●大学院の夏季休業中の学習

前期の授業は8月上旬で終了し、ほとんどの科目は試験ではなく、レポートが課せられており、学生はそれらの作成に追われ、成績判定の9月中旬まで続きます。



それに加えて、学校経営コースでは、派遣先の管理職研修の傍聴をしています。これは、本コースの教員が講師をする研修会や事例発表会で、①前期科目の復習になるもの、②後期科目の予習になるものを中心になっています。また、管理者研修等の雰囲気を知ることも狙いのひとつです。また、教育行政をテーマにする学生は、行政部局の研修会に参加します。

今年度は、山口県、兵庫県、福岡県、島根県、鳥取県、京都府、神戸市、大阪市、京都市、北九州市などがあり、派遣元の研修を中心に参加して学びを深めています。(写真)

## ●シリーズ 兵庫教育大学教職大学院の授業 ⑪

### ～教員のための情報処理演習（基礎）～（選択共通基礎科目）

今回の大学院授業紹介は、1年次前期に開講されている「教員のための情報処理演習（基礎）」です。

授業ではコンピュータに関する基礎知識や著作権に関すること等の情報に関する講義もありますが、科目名にあるように演習を多く取り入れています。プレゼンテーションソフトを用いた授業教材の作成やエクセルを用いた成績処理の演習、ホームページ等の作品をつくったりして、コンピュータの操作をすることが多く行われました。

学校経営コースの私たちにとっては今後、学校現場にICTをどのように効率よく活用するかを考える必要に迫られます。そのために情報機器を利用してどんな授業ができるのか、校務分掌における事務仕事にどのように活かすのか等の実務を知ることは大切です。そういった意味でも非常にためになる授業でした。

余談ですが、5年ほど前に筆者はニュージーランドにおいて、私的に1日高校を訪問して授業を見せてもらう機会がありました。早朝にアポイントを取ってその日に見せてもらったので、先方は事前の準備などしていませんでした。特に研究指定を受けているわけでもない、ごく普通の片田舎の学校でしたが、すでに電子黒板が取り入れられていました。社会の授業などを見せてもらい、効率よく授業をしているのを目の当たりにし、PISAの調査でもニュージーランドの順位が高いのがうなずけたのを覚えています。右図は「教育の情報化に関する手引き」（文部科学省平成22年10月）からの抜粋です。ニュージーランドで筆者が見た光景は、まさにこのようなものでした。



児童がICTを活用して発表する例  
（自分の考えをインターネットや新聞から得られた情報をもとに説明している）



教員がICTを活用して指導する例  
（ネイティブ・スピーカーの音声をICTで聴かせながら教科書を説明している）



上の図は、この授業におけるある院生グループが作成した、小学校・中学校・高等学校のくさばな・植物に関する単元のパワーポイントを使った教材のスライドの抜粋です。アニメーションを駆使してわかりやすくユニークな作品になっていました。

## ●教育委員会評価ヒアリングに同行させていただきました

学校経営コース大野裕己准教授に同行して、丹波市教育委員会第三者評価のヒアリングに参加させていただきました。8月1日（月）に丹波市山南支所（兵庫県丹波市山南町）にあります丹波市教育委員会で行われました。各課の各事業について自己点検・自己評価シート、事務事業評価シート等の資料を用いた説明を聞いた後、質問や意見交換を行いました。丹波市は平成16年に柏原町、氷上町、青垣町、春日町、山南町、市島町の6町が合併してできた人口約7万人の兵庫県中東部に位置しています。また、2006年に草食恐竜（丹波竜）の化石が発見されたことでも有名です。事前学習によって充実したホームページなどからもうかがえていましたが、お話を聞いてさらに職員のみなさんの教育に取り組む真摯な姿勢と熱意を感じることができ、第三者評価のことだけでなく多くのことを学ぶことができました。



丹波市山南支所

丹波竜の化石工房もありました。